

宮代町立小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会

第2回会議 会議録

開催日時	平成25年8月9日 午前10時05分～12時30分	会場	宮代町立図書館ホール
委員出席状況			
氏名	出欠	氏名	出欠
1 野口 昌宏	出席	6 飯山 知美	出席
2 松本 順子	出席	7 平井 紀子	出席
3 上野 雅子	出席	8 唐沢捷一	欠席
4 蛭間 和彦	出席	9 高柳英雄	出席
5 鈴木 保弘	出席	10 山内靖子	出席
		11 山田信夫	出席
		12 大塚 健嗣	出席
		13 小暮 滋	欠席
		14 船橋 昭一	出席
		15 和井田節子	出席
		16 上田 悟	出席
		17 高田 祐司	出席
		18 鶴見 城二	出席
		19 宮部 達夫	出席
事務局			
教育長	吉羽秀男 / 教育推進課長		渡邊和夫
学校教育室長	主幹兼指導主事 山口 隆夫		
教育総務室長	井上正己 / 主査	石井 栄 / 主任	元井真知子
会議次第			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. あいさつ 3. 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 審議会での検討事項、スケジュールの確認について (2) 宮代町立小中学校の現状について (3) 事例研究（先進地視察）について (4) 意識調査の実施について 4. 質 疑 5. そ の 他 6. 閉 会 			

1. 開 会

○船橋会長 それでは、定刻になりましたので、本日の審議、これから開催をいたしたいと思います。第2回目であり、皆様、暑いところお越しいただきまして、まことに恐縮です。私どもの諮問の内容について、きょうは第2回目、具体的な資料をご用意いただきました。それでは、ご挨拶を吉羽教育長さんからお願いいたします。

2. あいさつ

○吉羽教育長 皆様、おはようございます。本日は、大変ご多用の中、またお暑い中を第2回宮代町小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会、ご参加くださいまして、まことにありがとうございます。本日は、次の4点について審議していただく予定でございます。よろしくお願い申し上げます。1点目はこの審議会の目的と検討スケジュール、2点目が小中学校の現状について、3点目は先進事例の視察について、それから最後に意識調査の実施についてでございます。審議委員の皆様におかれましては、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議 題

4. 質 疑

○船橋会長 それでは、早速ですが、きょうは大分たくさんの資料がございますので、事務局のほうで、順次進めていきたいと思っております。

○井上室長 皆様、改めましておはようございます。よろしくお願いいたします。開会に当たって、本日お配りした資料、少し多いので、確認だけさせていただきます。まず表に出ております会議資料、これが表紙になっているものが1点、それから事前にお送りしたのは、A3の横長で資料1から資料5までかと思っております。それと別冊資料として「宮代町立小中学校のよこ顔」をお送りしました。これは毎年発行しております「宮代町の教育」という冊子の一部、学校分を抜粋した資料です。この他、本日、説明スライドのコピーとして「宮代町の教育」というまた同じタイトルの資料を机の上に置かせていただきました。それぞれでございます。

〔「はい」と言う人あり〕

では、早速説明に入らせていただきたいと思います。

○井上室長 本日の会議の内容ですが、冒頭にあるとおり大きくは4点のお話を申し上げたいと思っています。

まず1点目が審議会の目的と検討スケジュール、これは前回の会議、初会議ということもありまして、どこまでどの程度議論を進めるべきかという点の共通認識を図っておいたほうがいだろうという点からテーマにしたものです。いま一つがそのためのスケジュールです。(2)といたしましては、「今、宮代町の小中学校、どんな状況か？」という点、これを数字的な面を含めてご説明をします。3点目が、やはり今後進めていく上ではさまざまな事例、いろんな取り組みがあります。こういったものを一度見る必要があるのではないかという点の検討。最後が前回の会議でも出ましたが、意識調

査についての内容です。

以上、盛りだくさんでございますので、順次説明をしたいと思います。

まず資料をお開きいただきたいと思います。

この審議会として目標としているところです。来年を目標にして皆様からいただく答申のイメージをまとめたものですが、1点目は学校の適正な規模と数ということで、おおむねどれくらいの規模、子供の数、あるいは学級の数であれば教育環境として適切か、適当かということをお答申として頂戴したいというのが教育委員会の諮問の趣旨でございます。

ですから、個々にこの学校をどうするこうするといったことを求めているものではありません。将来10年後、20年後を見据えて町の学校の位置、配置、こういったものをどうすべきかという、「べき論」を頂戴したいというのがこの趣旨です。

同様に2番も、「この場所に」というピンポイントで頂戴するというのではなくて、こういうことを気をつけて考えて配置、通学区域を考えていくべきということをお答申いただきたいと思いません。

3点目が「多機能化の可能性」です。これからもいろいろな事例、ご紹介することになると思うんですが、子供の数というのは、やはり将来さらに減る可能性もあります。そうすると、建設した学校にさらに余裕ができる場合もあるかもしれません。そういったことも見据えて、地域のいろんな機能、そういったものを盛り込むとしたらどんなことに注意したらいいのか、どういう施設であれば望ましいのかということをお議論いただいた上で答申の中に盛り込んでいただきたいという、以上3点が今回町教育委員会が皆様に諮問申し上げた趣旨です。

町ではこの答申を受けまして、さらに外形的ないろいろなデータに基づいて学校を配置するための案をその後つくりたいと考えています。その後に住民の皆様への説明会等を通じて町全体でこの議論を高めた上で、最終的な決定の機会を得たいと思っておりますので、向こう1年間の検討イメージは、こういった大きい枠組みという点でご理解いただければと思います。

その下、(1)の2としまして、今後のスケジュールです。現在は宮代町の学校を取り囲む現状を把握いただくのが現在だと思っています。今後、他の事例もごらんいただいて、そして保護者の方を中心とした意識調査を行って、現状について皆さんに共有をいただく。その後に具体的な検討に入っていくということの流れとしてまとめたものです。おおむねこの時期にこれぐらいのペースで進めればいいなというイメージではございますが、それは今後検討する中で前後してくるというふうに理解しています。

既に通知でもご案内しましたが、この間の動きというのは、町のホームページ、既にごらんいただいた方もいらっしゃると思いますが、あるいは広報、それから町議会の報告等を通じて全町にきちっと公開をしていきたいというふうに思います。あわせて本日、上のほうに宮代町らしい教育の実現というのを一筆入れさせていただきました。これはこの後説明申し上げるのですが、どうしても建物の話に陥りがちなんですが、目標とするのは「宮代町として目指す教育」、これを実現していくということを常に原点に見据えて今後の検討を進めたいという我々の気持ちといいますか、表したものです。

その宮代町がどんな教育をしているのかという点をまず今ご説明をして、それが今後もっと発展できるような、そういった環境整備という視点で行っていききたいと思いますので、まずはその説明に移らせていただきたいと思いません。

では、今ちょっとスライドを用意しますので、少々お待ちください。

○山口主幹兼指導主事 それでは、皆さん、こんにちは。宮代町教育委員会学校教育室の山口と申します。私のほうからは、宮代町教育委員会の取り組みを中心といたしました特色ある宮代の教育について発表させていただきます。

宮代町教育委員会では、埼玉県教育振興基本計画を受けまして、憧れをともに実現！宮代いきいき学校プランを策定いたしまして、夢や憧れを持って日々努力すること、確かな学力を身につけ、主体的に創造していくこと、学校や郷土に誇りを持ち、ともによりよい生活を追及していくことという、こちら上にありますが、夢、創造、絆の3つを合言葉といたしまして、心豊かでたくましく生きる人づくりを目指した教育活動を推進しているところでございます。

まず、憧れを未来につなぎ、生きる力を育てる宮代教育の創造に向けましては、9カ年を見通した特色ある小中一貫教育、一番奥でございませぬ、主体的に学ぶ子供を育てること、郷土宮代の環境を生かし、感性を育てること、真ん中でございませぬ。家庭・地域の教育力を生かし、ともに子供の自立を目指すことを3つの視点といたしまして、ここに柱がありますが、順番に紹介させていただきます。

一番上からですが、夢とあこがれを育み、感性を磨く教育の推進、2、生きて働く確かな学力を保障する学校教育の推進、3、豊かな心と健やかな体の育成、4、地域・家庭・学校が一体となった教育の推進、そして最後ですが、生涯学習とスポーツの振興、5つを目標として掲げております。

その実現に向けまして、小中一貫教育の推進、学力の向上、環境教育の推進、道徳教育の充実等を現在進めているところでございませぬ。ここでは時間の関係もございませぬので、小中一貫教育の推進と道徳教育の充実の取り組みについてご説明をさせていただきます。

初めに、小中一貫教育の推進でございませぬ。

本町の小中一貫教育は、平成15年度より須賀中学校、そして隣に隣接いたします須賀小学校において小中一貫教育をスタートいたしまして、現在も継続して実践してまいりました。ことしで11年目となります。現在は、宮代町小中一貫教育推進委員会を核といたしまして、町内全ての中学校区で中学校のリーダーシップのもと、それぞれが小中学校の接続を滑らかに、さらに地域の実態に応じて特色ある活動が進められております。中1ギャップや不登校等の生徒指導上の課題解決に役立てることはもちろんでございませぬが、小中学校の互いのよさを認め合い、教師の授業改善に生かすなど、教師の意識改革にもつながっているところでございませぬ。

各小中学校によって取り組む内容にさまざま違いはございませぬが、幾つか具体的な取り組みを上げさせていただきます。

まず1点目でございませぬ。1点目が校長交換講和でございませぬ。小学校校長が中学校で、中学校校長が小学校で1年間に2度ほど、年間計画に位置づけ、校長による交換講和を朝会の時間を中心といたしまして行っているところでございませぬ。

2点目が教職員による相互授業参観でございませぬ。各校で行われます校内授業研究会、学校公開の機会を生かしまして、できるだけ多くの職員が相互に授業参観をできるような機会を設定しておるところでございませぬ。本年度1学期を計画的に実施をしているところでございませぬ。

3点目といたしまして、小学校への出前授業でございませぬ。各教科、国語、算数、理科、英語活動等において、中学校教師による小学校への出前授業、中学校の教員が小学校で授業を行うということもございませぬ。さらに、鼓笛等器楽の練習や陸上競技会の練習への指導も専門の中学校の教員により

行っております。そのほかにも、小中の保護者との連携を図ることを目的といたしました小中合同の学校公開、バザー、さらには校内音楽会の同日の開催等に取り組んでいるところでございます。また、中学生が小学校で合唱を披露したり、さらに小学生が中学校の運動会で鼓笛パレードを披露したりするなどの児童生徒間の交流も進めているところでございます。

教職員間の交流を通しまして、小中学校の教員がお互いの学校の教育活動、小学校、中学校それぞれの教育活動を理解し合うということで、指導方法について話し合い、それぞれの学校の教育活動に生かすことができいております。

また、児童生徒間の交流を通しまして、小学生にとりましては、中学校生活への不安の解消、さらには中学校生活に対する期待感の向上へとつながっておりまして、中1ギャップ等の解消にもつながっております。また、中学生におきまして、小学校の児童に教えることによりまして、中学生自身のですね、自分自身の自信へつながっているという効果もございます。

続きまして、郷土資料活用を生かしました道徳教育の充実についてご説明申し上げます。

宮代町では豊かな心の育成に向けまして、道徳教育を中心に取り組んでございます。郷土道徳資料といたしまして、宮代町郷土の偉人でもあります英語学者である島村盛助氏を取り上げました道徳資料をはじめ、戦後間もない時期に須賀小学校の子供たちの思いを学校、家庭、地域が受けとめ、学校にピアノを購入するという出来事をもとに作成いたしましたどんぐりピアノ、また、宮代町にあるトラスト保全第5号地の山崎山でのボランティア活動を取り上げ、自然のすばらしさを知り、動植物を大切にしようとする態度を養うことをねらいといたしました山崎山など、3つの資料を開発し、町内の学校に資料を配布し、年間指導計画の中に位置づけ授業を実施しているところでございます。

以上、ご説明申し上げたとおり、宮代町では小中一貫教育の推進を教育活動の重要な柱といたして取り組んでおりますが、さらに小中学校において、子供、学校、地域の実態に応じた具体的な実践を各学校で行いまして、児童生徒に確かな学力と豊かな心の育成を目指し、教育活動を推進しているところでございます。

本日配付いたしました宮代町立小中学校の横顔ということで資料のほうを配付させていただきましたが、後ほどごらんいただければと思っております。ここでは、時間等の関係もありますので、先ほどスライドで示させていただきました小中学校7校について、スライドのみのご紹介とさせていただきます。

大変簡単ではございましたが、私からの説明は終わりとさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。

○井上室長 以上で説明のほうは終わりなんですが、まずは今回、この審議会として目標の共有、それからスケジュールについて説明をさせていただきました。

○船橋会長 ありがとうございます。

いかがでしょうか、これまでのところ、もう過去の町の教育のほう、10年間の実績を積んでいるもの、それから、ごく最近始まったものもあるのでしょうか。今のお話を伺いますと、いずれも各学校で具体的な取り組みが行われているということでもあります。

今のお話でご質問等ございましたら忌憚なくお聞かせいただきたいと思います。

どうぞ。

○鶴見委員 小中一貫教育、相当に重点的にこれからも進めていかれるというお話。10年間、私も推進人の1人として参加させていただきましたので、十分わかっておりますが、須賀小、須賀中、これは2校連結しております。ですから、学校の先生同士も、中学校の先生、小学校の先生同士も顔なじみというか、いつでも会えるという感覚でおられるのではないかなというふうに思いますが、ほかの小中学校はそれぞれに小中一貫教育ということで進めてはおられるんですが、どうも校舎が全然別、離れているということで、その点の不都合さがあるのではないかな。ここで改めて校舎を配置替えするというお話になった場合に、これを幾つかの学校に仕分けて連結するという校舎の配置にするというのが望ましいかなというふうに思っておりますし、須賀小中につきましても、教員室がそれぞれ連結していると言いましても離れておりまして、職員室同士が連結するというような形の配置にはなっていない。

サンプルで申し上げますと、江東区に有明小学校という学校がございます。これは小中まことに完全に一体化された校舎になっていまして、1階の部分に小学校の職員室と中学校の職員室が隣り合わせになっているという配置をしている学校がございます。こういった例を見ると、小中一貫を唱える以上、そういった校舎配置まで考えるというほうが進めやすいのかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○船橋会長 そういう具体例を今、鶴見委員からご紹介いただきましたが、まさに最初の冒頭のほうでこうあるべきというところへ話をつないでいく、そういう1つの例示をいただいたということではないでしょうか。

事務局のほう、何か補足がありましたら。

○渡邊教育推進課長 施設のあり方として、そういう合築の形ですとか一体化の整備とか、そういった先進事例は出てきているようですので、そういった情報も今後検討していく中で、事務局のほうから若干提供をさせていただければというふうに思います。

10年、20年先を見据えていただく話ですので、そういった情報も含めてご検討いただければありがたいなというふうに思います。

○船橋会長 ありがとうございます。

今のお話では、インフラのほうで近づけたら、そういう1つの例でございます。これはまさにこれからどうあったらいいかという核心に入っていくときにまたご案内したいと思います。

ほかにいかがですか。

どうぞ。

○上田委員 今、宮代の教育ということで小中一貫校ということが埼玉県内でも本当に突出した取り組みをしているというような、私もたくさん聞いていますし、見ているわけですが、今、幾つかの柱を見させていただいた中で、ちょっと疑問に思ったことが2つあります。

1つは、小学校への出前授業というのがとても効果が上がっているんじゃないかと思いますが、どうして中学校への出前授業がないのかなと。私は、素朴な疑問を持ちました。というのは、小学校の体育主任さんが、音楽主任さんが、中学校へ行って授業をやるというのも一つの交流になるのかな。これは素朴な疑問です。

それから2つ目は、合同のバザーというのが非常に触れ合い活動になると。保護者でも子供も先生

方も大変効果を上げているというのをある学校で見えています。その学校では小中合同でバザーをやっているんですが、体育館に足の踏み場もないぐらい献品があるんですね。大変な効果を上げていると。いろんなそこではイベントをやっていますので、本当に1つの場所で一緒に活動する場が見られるということで、本町の場合は百間中学以外は「1小1中」ですから、そういうバザーというのが大事なんじゃないかなと私は思います。

以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。

中学校の場合は指導が専科という形で、担当する先生方のそれぞれの専門をお持ちになっていますから、そういう意味では、ある特定の科目に特化して小学校のほうに出向いてということも、それは可能ですね。

今の上田委員のお話で、小学校から中学校へ、これはあってもいい。小学校の先生で広い視野の中で中学生に接する、そういう機会があっても、そういうチャンス、1つすぐ思い浮かぶようなことで考えると、道徳教育、あるいは総合学習の場、語学教育の場面、そんなところで1つの面があるんじゃないかと思えますね。

今のお話は、小中一貫教育の位置づけを各先生方がどう展開するか、いわゆる方法論のほうにいく意味ではないかと思えます。バザーについてはいい例として、参考にさせていただきたいなど。

今ありました中学校の出前という部分では、また具体例があれば。

○山口主幹兼指導主事 今、上田様からご指摘いただいた部分でございますが、現在宮代町といたしましては、先ほど私のほうで、中学校の先生が小学校に出前授業ということでご説明申し上げたところですが、昨年度来から中学校の音楽会において、小学校に音楽専科の教員がおりますので、小学校の音楽の教員が中学校の合唱祭に行き行って審査員として参加をするというような、そんな取り組みも小中一貫教育の交流の中で行っているところでございます。普通の授業においては、上田様にご指摘いただきましたが、専門性という中学校の教員のところがございまして、そのあたりも十分に今後話を進めていながら、何か方法を探していっているところでございます。

それと、小中合同のバザーでございますが、須賀小中で行った経緯がございます。やはりこの立地的な条件が非常に整ってございましたので、実施できました。そのときは小学校、中学校のそれぞれの体育館にそれぞれの学校の児童生徒が行き交いながら交流していったというようなことも、私も実際その場にいたわけですが、そんなこともございました。さらに検討して進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。もう30分ほどたちましたので……

どうぞ。

○和田委員 今お話を伺って、時間の関係で余り進められなかったと思うんですけども、私もこの宮代の学校の3つほど関わらせていただいて、どの学校も先生方がすばらしく一生懸命頑張り、また子供たちが日々成長している様子を見せていただいているんです。多分宮代の学校全てそうなんじゃないかなというふうに思うんです。

それで、宮代の教育というのはとてもすばらしいものがいっぱいあるということで、私は外から来ていて思います。これが最終的には学校の規模とか数とか、通学区域の話になるんですけども、だ

けれども、やっぱりそこ、今何が行われていてどこを課題として、それに向けてみんながどんなことをやろうとしているかということ、ここにおいてになる方は多分ほとんどの方は自分がかかわっている学校以外のことは知らないんじゃないかと思うんですね。そうすると、自分の学校のことを大事に思っている感じで、やっぱりそういうふうに客観的には見られないというところがあると思うんです。

だから、今のいろいろご質問があったことはすごく大事なことですし、でも、それを解決するというよりは、そういう中で宮代のよさというのはどこなんだろう、そして、もしこの先規模とか数とかがある程度決まったとして、その先、もう一歩先に進んだときにこのよさをさらによくしていくためにどんな工夫ができるかとか、あるいはこのよさをこんなことをやったら消えてしまうとか。何かそういうふうなことが、やっぱり自分の学校だけじゃなくて、全体を見通してわかるような形である必要があるなというふうに思うんです。

ですので、今いろいろお話がありましたけれども、やっぱり時間はないけれども、ここは根幹のところ、それで進め方でみんなで知恵を出し合うという意味ではすごく大事な話だったと思いますので、何か引き続き各学校の大事にしていることや宮代を支えている部分というのを少しずつまとめていっていただければ、私たちがまとめていければというふうに感じました。

すみません、感想ですみません。

○船橋会長 ありがとうございます。

今、和井田委員さんのお話の中で一番大事なのは、ちょっと視野を広めよう、その大事なキーワードが宮代のよさを考えていこう。言葉のまとめ方はまだ十分ではありませんけれども、こういうものを核にしていけば、これからのスケジュール上に乗かってきます意識調査のときに、町の市民の皆さんにご説明するのに、いわば審議会としては自信を持って臨めるんじゃないか、こう思いますんで。今いただきましたこの宮代のよさというところを皆さんで共有していく、その努力をしたいと思います。

先ほど来からのお話で、宮代の教育のキーワードについては事務局のほうからご説明がありました。大まか各自つかんでいただけたと思いますが、審議会のスケジュールのほうにちょっと話題を変えて、事務局からお話がありました大体来年の6月まで、ごく近くは意識調査のところの1つの鍵に、こういうスケジュールで皆さんとまとめの方向への意識の共通理解を深めていくというスケジュールでよろしいかどうか。一応お伺いしたいと思います。

各委員、お考えございましたらお示しいただきたいと思います。

どうぞ。

○鶴見委員 情報公開という表現がございまして、何でも町民全員に情報を開示すればいいというような動きがややもするとあるんじゃないかなというふうに思います。今回のテーマも、もう既に笠原小がなくなるんだってなんて百小の子が言ってみたり、いろいろ弊害がぼちぼち始まっている、部分的なうわさ話みたいな格好で話が飛んでしまいますと、本当の意味の理解がないままに部分的なところだけで学校同士がもうけんかになってみたり、子供同士の意地悪言葉になってみたりというようなことになってきつつあるような感じがするんですけれども、これはちょっとね、スケジュール的にどの段階まで内部で詰めた上で皆さんに諮るかというところは慎重に構えていただいたほうがいいかなというふうに思っています。

○船橋会長 今回2回目の審議会で、例えばきょうの話題の中で出てきますキーワードを皆さんにお知らせして、議事録の全てを例えばホームページで公開するというのではなくてもいいと思いますね。今、鶴見委員のおっしゃったことも大事にしていきたい。まだ町の皆さんは審議会が具体的にどう動いていくかということがよくご理解なさっていない部分もあろうかと思えます。そういう意味で1つの思惑が別の思惑になって空回りしていくことにもなります。

いずれにしても今のスケジュールの中で意識調査の中に盛り込まれていく内容であろうかと思えます。

どうぞ。

○井上室長 1点補足します、先ほどの鶴見委員に対する回答の補足になりますが、このスケジュールの中で、各学校をどうするか、それぞれの学校をどうするかというところまではもみませんし、当然公開もしませんので、そこは以前のマネジメント計画のことをおっしゃっているんだと思うんですが、今後の提供の中で十分配慮、工夫してまいりたいと思えます。

○船橋会長 ありがとうございます。

今、事務局のほうからお話がありましたが、宮代の将来の教育というものを見据えた上で、こういう学校であってほしいな、それからこういう機能を兼ね備えたものであってほしいな、そういうところに落ち着くようにしたいと、そういうふうに町の皆さんへの広報も努力することになるかと思えます。

どうぞ、鈴木さん。

○鈴木委員 すみません、事務局の方に聞きたいんですけども、これはものすごく僕も必要だなとすごく感じるんですね。やっていくべきだと思うんですけども、例えばこの推計とか何かをこうちらっと見ると、平成45年まで、あくまでも推計なんでこういうふうな人数で下がってきているというのがあるんですけども、これはこれでやるとして、同時進行として、例えば若い人の住民をふやす運動だとか、子供がもうちょっと宮代町にうんとふえるようにとかという動きみたいな活動というんですかね、そういう行政なんかは一切もうしてなくて、もうこれ1本でやっていくという感じなんですかね、町として。

○渡邊教育推進課長 町といたしましては、定住促進策、若い人の流入の増加に対しても、これは意欲を持ってしまして、今、区画整理等も進んでいる地区もありますけれども、定住促進、あるいは子育て支援という形で若い世代が入ってきていただくことをこれからも進めていきたいというふうに思えます。ですから、このデータはあくまでも現状の数字をベースとした推計データでありますけれども、それと並行して、そういう促進策についても進めていきたいと思えます。

これからの時代、日本全体としてもう人が減る状況になりますので、いかに魅力ある地域づくりをするかということが、やはり入ってきていただくキーワードにもなると思えますので、その辺がまちづくりのまた今後の課題であるというふうに考えております。

○鈴木委員 ありがとうございます。

○船橋会長 鈴木委員さん、いかがですか。もしお手元に、こんな考えを持っているというのがあったら。参考に。

○鈴木委員 いや、私個人的には、もう学生時代は関西にいたんですけども、須賀中と須賀小は小中一貫教育の最初のモデル校になってやっていて、非常にいいなって感じたんですね。

実際私、今現在子供8人います。来年もう1人、正月に9人目が産まれるんですけども、ずっと長く続くので、ちらっと例えば本部役員にこの資料を、1回目の委員会が終わった後に各学校に持ち帰って、本部役員のお母さん方にこういう資料を見てもらったら、もう単純に我が事じゃないみたいな感じの答えが多いんです。だから、この意識調査なんていうのが小中学校のお母さんだけじゃちょっと対象まずいなと思ったんですね。今逆にもう本当に赤ちゃんを産まれたぐらいのお母さんから聞いてもらったほうがいいかなというような感じなんですけれども。うちの子は、もう2年後ぐらいには終わってしまっているから関係ないよとか、その1つにならないんですよ、なかなか意見としては。

本当はものすごくこういう多機能にしていくことも大事、本当に税金で動かす中ですから、税制が悪く中で、本当に小学校をある程度、中学校をある程度ちゃんと凝縮した上で、生徒数もちゃんと確保した上で、先生もちゃんと充実した中、さっきの本当にどおりになるならば、いい教育だと思うんです。まさにそれは今後宮代町の売りになってくるのかなど。なかなか類がないようになってくればさらにいいな、なんていう期待が多いんですけども。現役世代のお父さん、お母さんともう終わる人とこれからの人とでは、やっぱりさまざまな意見があるんですよ。

それで、さっきちょっと念を押して聞きたかったのが、この推計がうれしい誤算があるならば、その辺を考えて、例えば45年がですよ、あり得ないと言われてしまうかもしれないんですけども、この25年よりも上回っていたりとかしたら、税金もうんともらえるんで、また学校ふやすかと、いい意味でいいのかもしれないんですけどもね。

そういうところもちょっと確認してお聞きしたかったなというのと、我が子なんかはこれから生まれてまださらに15年とかお世話になったりするんで、小中学校には僕なんかもう2、30年近くずっとお世話になる親の1人ですから、真剣なんです。他人事では思えないし、我が子が本当に宮代町のいい学校、いい先生に恵まれてよかったなど、上のお姉ちゃん、お兄ちゃんがもう高校とか行っていますけれども、つくづく感じるんです。感じるからこそいいものはいいものとして、やっぱり残すべきだし、さらによくなるならばそれはそこだし。どうしても税金も絡むことですから、切り詰めなければいけないところは、1つの町を1つの家として考えた場合は、お母さん、やりくり今大変なんですよ。だけれども、お父さんばかりこうやって偉そうにしている、いいからこのまま維持しろよと。周りから見たらどんどん縮小すると、あそこんち、金なくなってしまって貧乏になってしまったね、みたいな感じに見られるのが嫌だからと、男のプライドとしてはこのままいたい、むしろ派手にしたい。けれども、お母さんとしてはやりくり切実だから、切り詰めるところは切り詰めて、子供のためにちゃんと前向きなお金に動かし方をしましょうとか。

分けて考えてしまうと非常に各論になってしまってわからないかもしれないですけども、本当に1つの家庭として、だから他人じゃなくて、もうここにいるメンバーも1人の家族として、1つの家族として考えたら、物すごくわかりやすいと言えばわかりやすい。それで、やるべきかやるべきじゃないかという、もう完全にイエスかノーで答えたら、やったほうがいいには決まっているわけですね。ただ、その、さっき会長さんが意識調査の話をされたときの提案として、最後の、するならば、新人ママさんとかなんかに、もし聞くならばですよ、もう中学校を最後の子が終わるといってお母さんに聞いても、意識全然変わるんですよ。だから、さまざまな意見は飛び交うと思いますね。

というところで、すみません、会長。以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。

今、鈴木委員さんのおっしゃった意識調査の対象ですね。一応各学校の保護者の方、いわゆるあります。考えてみれば、25年先、20年先、これは新しい家族構成の人たちがかかわってくるのですから。そういう、25年先というと今の中学生ですか。

○鈴木委員 今の子供たちが、うちの中学校へ通っている子供たちがお母さんになるんですよ。お母さん、そうですね。

○船橋会長 だから、そんなに遠い先じゃないんですね。

○鈴木委員 これからゼロ歳の子も25歳じゃ、もうお母さんになっている年齢方もあるんですね。

○船橋会長 そういうことですね。

そういう意味では、意識調査の対象を考えるとこのこれは一つの鍵ですね。

○鈴木委員 そうですね。

それで、このイメージが町の新しいお母さん方にいいイメージとして浸透すれば、必然的に、やっぱりロコミというのが大きいです。ホームページでアップしましたといっても、見る人は見ますけれども、それは話をしたって、見ない人は絶対見ないんです。回覧板を回そうが広告で配ろうが、見ない人はもう新聞の折り込みチラシと一緒に。スーパーの値段の特売は切実に見ますが、先のことはいいよという人は、やっぱり意識がなければ見ないわけですが。でも、そのロコミから来るもののイメージ戦略というんですかね、これから本当にいい意味で宮代町がさらにグレードアップするよ、生まれ変わるじゃなくて、グレードアップするよ、このまま宮代町に残っていて、うちの子供たちも宮代で子育てしたほうが物すごくいいよというような審議会になればいいなと期待しています。それで、一生懸命私も尽力したいなとは思っています。

○鶴見委員 追加させていただいていいですか。私個人的な話なんですけれども、PTAというのが気に食わないんです。私、3人須賀小さん、須賀中さんにお世話になって、もう卒業させて何年もたってしまうんですが、卒業した時点でPTAの会員ではなくなるんです。地域の住民ではあるけれども、PTAという立場にはいなくなる、なくなってしまう。その瞬間にお呼びでないです。何らかのお手伝いしたいな、バザーに出品したいななんて仮に思っても、このこのわざわざ出かけていくほどのことでもなくなってしまう。全く関与せざる人間になってしまう。

田んぼの学校ということを主催して東京の学校から14校ばかりこの町に来ていただいて田植え体験をさせているんですけど、その中の1校にまさに地域ぐるみだなという学校がありまして、私なんかこういう立場で、卒業の謝恩会に案内されるんですけど、それをまた物好きにこのこ出かけていくんですが、この町は子供育成会、子供会、PTA、三者一緒になって学校を守る、子供たちを面倒見るということにつながっているという町も中にはあるんですが、そういう学校にすると、まさに今おっしゃられたこれからの若い世代だけでなく、同窓会の所属にしている人たちも、私どもみたいにじじばばも含めて、学校エリアの中で学校を盛り立てていこうよという雰囲気生まれるんじゃないかな。

今回の意識調査とは全く関係ない話なんですけれども、そういう学校編成になっていってくれるとうれしいなというふうに思っています。

○船橋会長 ありがとうございます。いろいろお話が出て……
どうぞ。

○高柳委員 地域を代表して参っております高柳ですが、今、教育の専門の方々、あるいは直接今教育に携わっている現場の方、私どももかつては、20年前、30年前は我が子のために教育を真剣に考えていたわけですが、今はちょっとその辺とは遠ざかっている年代ですが、地域の者としては、今意識調査のこと、いろいろな角度から話がありましたけれども、やはりあそこの学校が残る、あるいはあそこの学校が残らないというふうなことが話に出てくるということは、それだけ確かに関心はあるわけですが、それ以上にこの適正配置という事柄について、私どもこの審議会は、教育委員会から付託されていると私は解釈しております。

第1回目も第2回目も、我々招集されるというか、委嘱された方々は見えておりませんが、やはりこの教育ということについてただ単純に考えれば、より深く現状を見据えて考えていくことは大事だと思うんですが、正直申し上げて、町の方向を変えていくようなことにもなりかねない問題なんですね。それはなぜかといいますと、やはり地域エゴといいますか、なくなるとうわさされている地域の方々は余りおもしろくないし、残るとうわさされているところは、うちの学校は残るのか、これはお子さんがいよいよといまいと、町民として誰でも思うことだと思うんです。

ですから、いかにやはりこの適正配置ということについて醸成しようとしているのか、またそれが必要なか必要でないのか、当然それはおわかりいただけるかと思うんです。まして宮代の場合は、今そうした多方面においては、行政をつかさどっていく部分においては、極めて今、何と申し上げましょうか、表現が出てきませんが、不安定な状況にあるわけですね。そういうことを考えたときに、もう少し影響度というものも私は考えてもいいのではないか。どこからどういうふうにするか、将来の宮代の10年先、20年先をこの辺で多少町民の皆さんにお伺いしていく機会であろうということによってこういうふうな審議会も設置されたんだと私は解釈はしておりますけれども、くどくなりますけれども、いかにこの適正配置を醸成していくかということをし、真剣に私は考えていただいて、町民のそうした不安を取り除き、よりよい教育環境というものをつくっていく必要があるのではないかなど。

私からは以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。

今、高柳委員さんのお話は、この委員会が目指していく、それから町が行政として目指していく、両方絡み合ってくるんだらうということですね。やっぱりそう考えますと、意識調査の中身が何を狙ってやるかというところがきっと大事になるなど。全体を皆さんのご意見をいただいて、考えておりますことを。

ちょっと話題が飛んでしまいますが、実は一昨日、札幌の資生館小学校というところに参りました。そこは、平成11年にこれと似たような状況で、札幌市の中央にあるんでにぎやかな町の中央部に、いわば東京でいうと千代田区と同じように住んでいる人が少なくなりまして、いろいろ考えまして、町の皆さんとお話をして、それは学校の保護者の方だけでなく、まさに町ですね。それから、つまり札幌の中央に勤務している人、そういう人たちも巻き込んで話をして、いわば今、高柳委員のお話のとおり、適正配置はどうあるべきか、約1年間審議しました。その後、意識調査に当たるところ、審議会の目指すところ、それを札幌市の意向を含めて町の皆さんと2年間で都合70回の説明会を開いた。

そう考えますと、一応私たちのほうは、今後宮代の学校配置はこうあってほしいねというところが一応ゴールの目標になっています。今ご紹介した札幌市の場合には、もっと踏み込む具体的な提案を町の皆さんに、そして多機能化の小学校をつくり上げた、こういうことでございます。

ですから、やってできないことではない、宮代でもできることがあります。私たちは夢が現実になるように、そういういわばアドバルーンというか…。——ちょっとお話が、山内委員さん、何かお話がございましたか、よろしゅうございますか。

では、

○和井田委員 ちょっとお話を伺っていて、多分、やっぱり根底のところ「いい教育をどうつくっていくか」ということで、それが住みたくなるまちづくりをどうしていくかということとかかわっていて、それで中国なんかもそうなんですけれども、いい学校というか、みんなのうわさでこの学校がいいといったら、あそこは孟母三遷の国なんで、本当に町ができるぐらいに人が集まってくるんですね。ですので、やっぱりそういうふうな、都内でもどこどこに転居するかというときに教育で選ぶというのはもう最近はずごく行われているので、そういう意味では、もうまちづくりとよい教育づくりを、それをどうやって発信するかというのは多分一致していると思うんです。

ただ、皆さんがおっしゃっているように、この悪影響というのをちゃんと早いうちに、曖昧な情報が出ていくことによる悪影響は子供たちのやる気をくじいたり町の人たちを混乱させたりするので、それをどんなふうにして防ぐかということは、もうちょっと深く考えていかなければいけないことだろうなということが1つ。

それからもう一つ、それと同時にではありますけれども、適正配置ということは私たちに与えられることなので、それも考えていかなければいけないということで、もしかしたら少し、これから先、今の3点にわたって、少しそれ専門に考える人たちがワーキンググループをつくって、次回までに、ちょっとこの部分はこんなふうを考えましたというのを出すとかというふうにして、少し整理していくということと、それから、多分皆さんがおっしゃったことは事例研究のところにもかかわってくると思うので、こういうふうな先行事例があるから、これはいい事例も悪い事例も含めて、そういうものを出していくことによって、少し私たちに悪影響を防いでいい影響をもっと表に出すことができるかもしれないなというふうに感じました。

ですので、きょうこういうふういろいろ出たところを少しある程度、きょうの全体が終わったところでワーキンググループをつくることも少し考えていただいたらどうかなというふうに感じました。

○船橋会長 どうぞ。

○上田委員 今、隣の方がおっしゃった風評ですが、私は、1回目の審議会が終わった後、私の住んでいるところは和戸、国納というところ。須賀小、須賀中か。一応通ってみましたら、あるおばあさんにつかまりまして、話を聞いてくださいというので、何ですかと言ったら、うちの孫が笠原小に行っているんだけど、来年なくなるんだと言っていると。心配で心配でしょうがないんですということで、審議会ですら話をしたら、安心したと、よかったと。そういうことじゃなくて、10年、20年先、宮代の学校がどうあるべきかということをお話し合っているんですよ。ホームページとかも出ていますしというのは、ここですね、この審議会ができたというのは皆さん知っているわけですから、それに対する風評被害もあると思うんですが、逆に言うと口コミというのがプラスにもなるんじゃないかなと。さっき言ったように、こういうことだよという、ああそうかと安心すると。そういう意味でのこの審議会というのは物すごく大きいなと。今、グループをつくってというのもとてもいい方法だと思いますので。

もう一つは、私に対してそうですから、各学校のPTAの方とか校長先生なんかは、そういう審議会をやった後のいろんな話を聞いているんじゃないかなと、情報入っているんじゃないかと。後ほどそういうのを聞かせてもらったほうが意識調査に役立つしと思うんですね。私は、その方がそういう審議会をやっているとか知らないで、少し教育をやっていたんで聞いたんだらうと、わらをつかむ思いでつかまえたんじゃないかなと思いますが、そういうところ、本当にグループで協議していくというのは大事だなと思いました。

以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。

今、上田委員さんのほうからお話がありました。きょうちょっと少し脱線するかもしれませんが、町の皆さんが私の学校どうなるのという、いわばどうも思いがけない捉え方ですね。そういうことがあるということであるならば、これはもう、すぐ対処したほうが良いと。

今、和井田委員さんのほうからワーキンググループというご提案がございましたので、きょう一通り終わったところで再度お諮りしまして、この場合は20人近い委員の会合でありますけれども、ホームページの中でお話で公開する部分含めてですね、いわば委員会、今日の審議会のお知らせしていいキーワード、そういうものを少しまとめた上で、いわばここからの広報ですね、を出したほうが良いと思いますね。

今、上田委員さんのほうからお話があったように、PTAの役員の皆さんのほうにチャンスがあったら、この間の審議会はこうだったのよというようなお話をしていただければ、なおいいですね。まとまった調査用紙が配られて、「はい、いかが」と聞くよりも、ある程度実際にこの場に臨んだお話をしていただいたほうが私はいいかと思います。

少し話が長くなりましたが、一応きょう皆さんのお気持ちを考えますと、審議会のスケジュールは、これから進めていくわけではありますが、大体の予定として、これから事例研究もありますけれども、事例研究は現にうまくいったところ、それからこれは考えようですが、うまくいかなかったところ、いろいろあります。きょうもお話がありました、和井田先生も私も、幾つかの事例を実はホームページでさんざん探しまして、事務局のほうにお知らせしてあります。皆さんのほうからも、どうぞ、これから事例研究に入りますんで、いい事例、あるいはちょっとつまづいた、この県内でもうまくいかない例もあるんですよ。ということをお知らせいただきたいと思います。

一応目指すものは、目指すスケジュールは、この事務局からご提案のあった方向で大体動いていくということでよろしゅうございますか。

〔「はい」と言う人あり〕

○船橋会長 では、一応この1点を確認しまして……

○鶴見委員 段取りはいいです。意識調査が10月というのはむちゃくちゃだと思います。

○船橋会長 とても忙しいんですね。忙しいんです。意識調査、10月1カ月でできるかという余り自信ないんですね。

○鶴見委員 ありません。

○船橋会長 ましてや集めて回収率のパーセンテージにもよりますが、それから集計して、さあ見えてくるものは何だと見据えなくてはいけないんですよ。

○鶴見委員 PTAの会員さんだけなら間に合わせろと言われれば何とかなるのかもしれませんが

ども、先ほどの鈴木委員さんからのお話のように、それだけで済む問題じゃないですから。

○鈴木委員 そうですね。PTAだけだと学校で配って、何日までと、父兄さんに出してくださいと言えば集まりがいいでしょうけれども、普通に住民さんに例えば……

○鶴見委員 そういう時限の話じゃないですもんね。

○鈴木委員 そうですね。配るとなると、集まるのはなかなか日数かかるでしょうね。

○船橋会長 いずれにしても、あそこは自分たち、いわば外で活躍する場が出てくるかと思います。その折には、ぜひお力添えをいただきたいと思います。

流れは一応これでご理解いただけましたので、これから現実に進めていく中で、ある意味つらい場面も出てくるかと。そこを何とか乗り切りたいと思いますけれども。

ちょっと5分ほど休憩しましょうか。きょうは予定は12時までですか。

○井上室長 会場のほうは最大12時半まででしたら可能です。

○船橋会長 皆様のご予定もございますので。

それでは、ちょっと5分ほど休憩を挟みたいと思います。

————— 休 憩 —————

○船橋会長 少し長くなりましたが、休憩を終わり、始めます。後半の部分へ進みたいと思います。

ちょっときょうは時間が押してきましたので、ご相談があります。4つですね、準備をいただいたんですが、これまでのお話の過程の中では、先ほどの内容から考えますと、意識調査、このことについてかなり話題になりましたので、事務局が考えている意識調査の論点というか、考え方をまず説明をしていただいて、時間がありましたら、次に、私どもの事例研究、このお話を進めて、さらに時間があつたら、きょうの2番目になっています、小中学校の現状のご説明を簡単にさせていただくと、こういう……

〔「いや、現状はさっき」と言う人あり〕

○船橋会長 そうすると、あとはこれね、ごめんなさい。こっちの現状ですね。

○井上室長 すみません、手短かに現状データだけ先に説明させてください。

○船橋会長 では、お願いします。

○井上室長 お手元にはレジユメがお配りしているかと思いますが、それと別冊でA3の資料、これは前面に映写しますので、お手元のレジユメと並行してごらんいただければと思います。

まず宮代町の人口、それから児童生徒の数をあらわしたのが前のグラフです。左上が人口でして、今後の推計の中ではさらに落ち込む見込みがやっぱりあります。というのは、この計算というのは出生率からはじき出しますので、現下の出生率のもとでは、トレンドとしては下がらざるを得ないという事は、宮代に限らず日本全体の話です。

先ほど鈴木委員からありました、町としては人口増加策がというのは、現実には取り組みはさせてあります。例えば道仏の区画整理、それから、今後予定しているのは和戸駅周辺の区画整理ということが計画の中には位置づけています。あわせて、ソフト事業では医療費のもちろん無料化ですとか、保育料もこの春、引き下げを一部行っています。

というようにハード、ソフト両面からの人口施策は並行して行ってきます。ただ、全国的なトレン

ドとしては下がらざるを得ないということは覚悟した上で、この準備を進めているものです。

続いて、資料2は、お手元のレジュメの(2)の1と対照いただくんですが、学級数です。現在各学校の学級数は、お手元のレジュメのピンクと緑に書いたとおりでして、各学年このような配置になります。前面をごらんいただいて、各学校色分けしまして、学級数の推移をグラフ化しています。昭和45年から現在までですね。

ごらんいただくと、特徴的なのは、小学校の場合、中学校の場合、それぞれ東小と百間中がピークがありまして、このときに笠原小と前原中という新設校ができています。この後、学級数がある程度ばらけて、その後は子供の数に応じて減っていくという流れが見てとれるかと思えます。

このピンクのゾーンというのは、文科省が定めるところの学校規模の標準、絶対これじゃなければいけないというわけではないんですが、おおむね適切であろうと言われている規模の標準でして、このゾーンの中に小学校はおおむね今位置している。ただ、中学校は下回ってしまっているというのが見てとれるかと思えます。

この辺がこれまでの推移です。確かに学級数的にはピーク時というのはすごい数を擁してまして、百間中学校はいつか27学級ですから、3で割ると1学年9学級、相当な規模かと思われます。

今後この学級数というのが見直しによって今の40人が35人になる可能性もありますので、その辺は注視した上で考えなければいけないこととしております。

続いて、これは目安ですけれども、学校の規模です。それぞれ子供の数において学校というのは床の基準があります。これは守らなければいけない絶対的なものです。このため学校はこれまで床を増設してきたんですが、現在では子供の数に対しては過大な施設となっていると。参考程度の資料としてごらんいただければと思います。

続いてが資料4になりますが、これは通学区域です。既に、大体でイメージ湧きますでしょうか。この薄い黄色が市街化区域のラインですから、大体この辺なのかなということをご想像できるかと思えます。水色が須賀小中、赤が笠原小、青が東小で赤青足したものが百間中と、緑のゾーンが百間小と前原中、それぞれ東、須賀と百間のエリアは調整区域と言いまして、どちらでもいいですよという場所があります。ただ、現実には宮代町、自由選択できますので、それぞれの地域であっても他の学校に行くことは可能となっています。

参考にこの半径1キロの円を描かせていただいたんですが、お手元の資料にありますように宮代は決して大きい町ではないです。鉄道等によって一部分断されていますが、町全体としては縦8キロ、横2キロというふうに言われているんですが、この円に照らすと大体半径4キロの円におさまるのが宮代町ということなんです。

学校教育の施行規則、あるいは基準の中では、「小学校は4キロ、中学校は6キロ」と、今の通学区と比べると長いですが、これが1つの上限といいですか、目安として設定をされています。

続いてが、これはちょっと前だと見にくいので、お手元に配った資料5を、ご覧いただければと思うんですが、これが各小中学校の学校長、校長先生方に全て7名の方にお会いしてお聞きしてきた内容になります。

事前に配付しましてそれぞれごらんいただいたかもしれませんが、簡単にお話ししますと、今、子供の数が昔に比べて減って、こんな点が課題ですよというのが1つです。例えば人間関係の固定化、どうしても子供が減ると役割が固まりやすい、もう「何々役は誰」というような固まりやすいという

のは否めないというお話でした。あとは単学級の難しさ。先生がお一人、子供も単学級の場合、クラス替えがないという中で難しさも生じてきているという点も伺っています。

それと、先生の絶対数が減った関係で、例えば中学校では全教科の担任を全て県のほうから配置していただけないといったこと、それから先生同士で協力したりする機会も減っている。部活ですとか行事、こういったものも制約ができてしまう。こういったことが聞かれて、多いです。

実際、では学校の規模というのはどれくらいが望ましいといたしますか、運営する上でいいんでしょうかねという投げかけに対しては、小学校は大体3クラスぐらい、という点が先ほどのグラフとも符合するんですが、おおむね今ぐらいの規模が常にあれば、運営はしやすいのかなというふうに考えています。

中学校については少し事情が異なりまして、今よりも多い子供、4から6クラスがやはり望ましいのではないかと。これは2つ理由があって、1つは、全教科の担任の先生が配置されるという点が1つ。それと、やはりいろんな競技をしたりする上で相応の規模、やり方が確保できるという、この2つの点です。

3点目が1クラス当たりの子供の数なんですが、大体小学校は25人から30人、中学校は30人程度ということが、それぞれまちまちだったんですが、要約すると見てとれたのがこのまとめです。

もちろん現在も子供の数が減っている中ではいろんな取り組みをいただいているわけですが、今後子供の数がさらに減るということを想定した場合、一つのこの学校運営上の目安として説明をしたいと思います。

右側へ移って施設面ですが、現在いろんな学校施設のほうも課題があります。1つは、古くなって壊れて直すところが多いというふうなこと。それと、いつか、ある程度、やむを得なかったのですが、増築を繰り返したため、学校の中の動線、動きが非常にわかりにくい、使いにくいというものもあるんだそうです。それから、学校の立地条件、こういったものもなかなか難しい面も出てきているということも聞いております。

さらに、今後どんな学校環境、設備面で充実していくべきでしょうかという中では、1番、2番は、やはり冷暖房、エアコンと子供たちのためのパソコン、ネットワーク環境という点が一番多く聞かれました。その他、そういったいろんな情報を使えるような部屋ですとか設備機器、こういったものについてもご要望をいただいているところです。

その他としまして、今いろんな学校のつくり、オープンスペースとかいろんなつくりがありますので、この辺は事例、それから先進視察とともにご紹介していきたいと思います。

最後、多機能化ですが、現在多機能化といたしますか、他の機能が入っているのは学童保育以外ですと、笠原小学校のひだまりサロンという施設なんですが、ここでは子供たちがいろんな経験ができていないかという点が他の学校の先生からも意見として出ています。あとは、図書館の機能があれば学校図書をもっとよくできる、司書も学校のほうに配置できたりするのではないかとといったご意見もあります。

こうしたことで、多機能化自体については方法論、やり方は別として、学校を活性化するキーとして捉えていただけているということがわかりました。

以上、学校の現状として、子供の数が減りつつある、そしてまた今後も減る可能性があるという点、減った場合の課題について、学校現場からの声として説明を終わります。

以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。

町の現状を知るのにどうしたらいいかなと私もさんざん考えまして、本当は、例えばですね、学校の何ですか、生徒数のこの推移の推計、それから学級数の推計、もうちょっとできるかなとは思ったんですね。例えば、当初私、各学校の学年別の推計できるかなと考えたんです。ところが、年度によって1年生のクラスが2クラスであったり、3クラスであったりするということが現にわかりまして、それをやりますと動きが激しくなってしまうんですね、推計できないということで、事務局とご相談しまして、ここに出ていますような人口統計のほうから大まかに見るという方法を考えました。

今、道仏のほうでは住宅開発が進んでいますので、そちらのほうのデータ処理も必要に応じて使う、つけ加えるということでありましたが、このデータの中には入っていないということでもあります。ですから、先ほど鈴木委員さんのほうから具体的なご指摘ございましたけれども、これはある意味広い視野で見る、そういうものですよということ。こうなりますよというものではございませんので、その点、ご理解のほどを。

全体の資料を拝見しまして、ご質問等ございましたら事務局のほうに伺いたいと思いますので、どうぞひとつお出しいただきたいと思います。

さっきご紹介しました札幌市の場合は、現在スクールバスが5台ありまして、全校で約600人の児童がいます。その子たちの約7割がスクールバスを利用して半径2キロぐらいのところから通っているということでもあります。宮代の場合には、町の長いほうが8キロですから、そこに学校では4校ありますね。ですから、通学の経路というか、通学距離についてはかなり恵まれた状況です。しかし、例えばですよ、須賀小学校で一番遠い、久喜の境目から来る子がかなり多いですね。ですから、反対に姫宮のほうから百小に来る子供たちも非常に遠いなというあれなんですけれども。そんなこともあります。

どうぞ、ご質問がございましたら。

どうぞ。

○鶴見委員 これご提示いただきました資料並びに東洋大学がまとめたこの冊子、見る限りの個人的な印象でしかないんですけども、どうしても3校、3校、あるいは私、これ、それでは中途半端なような、これは財政的な、経済的な面だけから眺めると、2校、2校に下さいというのが答えとしてもうどこかにでき上がっているような気がしてならないんですが、そんな疑問を感じるのは私だけでしょうか。

○船橋会長 どうぞ、事務局。

○井上室長 町のほうでこれまでの検討は数字的な面で一つの規模を探ったというのは否定しません。それがもとになっているのが、「公共施設マネジメント会議」です。

ただ、この審議会では、その数字は数字として、そして環境面、教育をどうするかという面でさらにご議論をいただくということがあります。さらに言うと、青写真的なものはございませんので、それはこの後つくるものです。

○船橋会長 ありがとうございます。

この審議会に先立って、2年前、3年前ですか。

○井上室長 お配りした緑の冊子は平成23年ですから2年前です。

○船橋会長 前回の資料の中にありました、あれは一つの考え方で、市民の皆さんにはあの資料は公開されているんですね。

○井上室長 公開はしています。

○船橋会長 今、鶴見委員さんがおっしゃったようなことは、とりあえずは念頭に、私は置いておきますんで。

どうぞ。

○上田委員 今、説明いただいた資料、人口、児童数、生徒数とか学級規模とか、こうなるということが示されたわけです。町はもうそうなると、そういう対応をしなければいけない。それがこの審議会の趣旨だということですね。

ただ、先ほどのおばあちゃんの話に戻って言いますが、申しわけありません。そのおばあちゃんが言った言葉が、笠原小は減っていないのに何で、東小は逆にふえるかもしれないよ、道仏とかの開発で。そこなんだと思うんですよ。というのは、例えば幸手にしても、児童が60人しかいないとか、だから統廃合というのがあったんだと思うんですね。児童も減っていない、逆にふえるかもしれないのに何で統廃合とか何だというのがおばあちゃんの言い分だったんですね。私はみんな同じだと思うんですよ。

だけれども、そうじゃなくて、10年、20年のスパンを考えたときに、まちづくりから考えればこうだということなので、意識調査するにしても何にしても、こういうようなデータとかを早目に示していかないと、さっきのように、アンケートをとっても、何で統廃合のことを話し合うんだとかしか答えが出てこないんだというふうに思います。ですから、私はできるだけ早くロコミで伝えていきたいんですが、たかが知れていることですから。多くの町民にそういうふうに伝えていく機会があって意識調査していかないとという意味で、この資料は大事なものじゃないかなと。何らかの形で知らせていく。説明会をやるまではいかないにしても、何らかの形で伝えていかないと、基準になるものがないんじゃないかなという気がしたわけです。

私、実は学校ボランティアをことしは20校やっているんですが、その中で、不思議なことに、A校は68人しかいないんです。B校は1,100人もいるんです。またそれを1日に、または1日置きにかけ持ちしているものですから、つぶさにその学校の様子を見ているんですが、そのA校はもう水面下じゃなくて表面下で廃校の話し合いが進んでいるね。B校は、もう立ち消えになったそうなんですが、新設校をつくらなければいけないというところまでいったんだそうですね。そのときの親の意識というのをちょっと聞いたことがあるんですけども、そういう意味でも意識調査なりを持っていくためには、これデータをしっかり示していく必要があるなというのを感じたところです。

以上です。

○船橋会長 今のお話で、会話を重ねているときに市民の皆さんにご理解いただけるように、こういう資料は公開したほうが良いと思いますね。これはもう現に見えているものですから。こういうものも話題の材料になっていますよというお知らせを仕方もあるわけですので。

今、上田委員さんのお話がありまして、ほかにどうぞ。

○平井委員 すみません、前原中学校PTAの平井です。

今、私、中学校の子と、あと百間小学校に通っている小学校の子がいます。こちらのデータを見ていただくとわかるのですが、百間小学校というのはこれからこの子たちが前原中学校に行ったとき、

前原中学校というのはほとんど2クラスになってくると思うんですね。この表を見ていただくと、中学校がもう既に基準から随分下回っていていろいろな弊害が出ているんですね。

同じように、小学校と中学校を考えて、じゃ、10年先にどうしたらいいかということをお話しているんですけども、今のこの中学校の現状というのは、このまま10年後に先延ばししているんでしょうか。ちょっとこの審議会の意味とはまたちょっと違ってきてしまうんですけども、現状をこういろいろ聞いていくと、ちょっと今の中学校のあり方、まずいんじゃないかなと思えてきてしまったんですけども。同じようにこう、じゃどうあるべきかということをお話を見据えてということでもいいんでしょうか。

○船橋会長 文科省の統計によりますと、全国的に見て、僕はちょっとはっきり数字をつかんでいませんが、5割近い状況でいわゆる文科省が示す基準に合っていない。だから、今、平井委員さんもおっしゃったように、今のこれでいいのという問いは、恐らくうまい答えがすぐは見つからないと思いますね。

だから、今3校ある中学校がそれぞれ地域の中でもう何十年、歴史を重ねていますからね。これからどうしたらいいかなど考えるまず第一は、今までのとおりでいこうよという考えもあるかと思うんですね。それから、もう規模が大きくなって、みんなで改めようという、そういう考えも出てくるかもしれないですよ。ですから、私は今の問いかけについてはうまい答え、出てこないであります。

事務局、何かお立場から。

○渡邊教育推進課長 現状としてすぐにどうこうというのはまだ教育委員会としても持っておりません。勉強の面、教員の配置の面等においては、町の費用で講師の補充とかはしておりますし、今後またこの計画がまとまって小中再編というのは実際に町としてですね、10年スパンというふうに申し上げても、一遍にそこで7校をやるわけじゃないですから、順々にやっていくわけですから。その中で、例えば中学校のほうを優先してやるとか、そういう議論というのは今後出てくる可能性はあると思いますし、そういう配慮も必要なのかもしれない。

現状としては、効果的に3校の中で運営していくというような方向になるかと思えます。

○船橋会長 はい。

○和井田委員 現在ひどい教育が行われているということではなくて、今おっしゃったように、講師の先生を配置したり、いろいろなことでそこは工夫していて、そういう学校というのは全国にすごくたくさんあります。本当に過疎の町はもっとたくさんあるわけで、そういうふうな学校はたくさんあって、そのそれぞれに頑張っているところがあります。

もしあの基準に沿って、この基準値以内に学校を再編しましょうという話だったら、こういう委員会は要らないわけで、だから、そうじゃなくて、そういうのはあるけれども、この宮代にとって一番いいのは何だろうというふうに考えて、その結果を町としても全面的にバックアップしながらやっていきたいと思いますという、そういう趣旨だと思うので、この数とかだけで、もうこれは大変なことになっているというふうに思わなくていいと思います。

ただ、やっぱりさっきの校長先生のお話の中にあるように、校長先生はいろんな学校に行っていますので、だから体験した学校と比較したときに、人数が少ない面でこのところは弱いなというふうに感じていらっしゃるということにとればいいと思います。

それで、地域によってはですね、こういう話し合いとか反対運動とかをもう考えて、最初から条例

で数を決めてしまっている地域もあるんですね。だから、もう何人になったら学校統廃合する、決めてしまっているようなところもあって、そうすると、本当に4校とか校とかが一遍になくなってしまったりしているんですよ。でも何か、やっぱりそういうのは余りよくないなというふうに私も思うんです。だから、ちょっと苦しいけれども、ここで現状ももっと考えながら、今時点、今このままじゃいけないから、そこで見えてきた悪いところは、今の状況でももっとよくするにはどうしたらいいとか、一緒に考えながらいけばいいんじゃないかなというふうに思います。だから、かなり柔軟に考えようということで、この委員会が立ち上がったと私は受けとめています。すみません、補足ですけれども、何か

○船橋会長 ありがとうございます。

今の和井田委員さんと、それから平井委員さんのお話の2つ伺いまして、宮代の歴代の町長さんが掲げてきた、この町は教育を大事にするよと、そのことを大きく受け取って、むしろこの審議会の中からこれまでの宮代の大事な行政の根幹である教育重視の考え方をもっと進めなさい、そういうものを盛り込んで私はいいと思います。

ですから、いってみれば、さっきのデータの中の1クラス25人ぐらいがいいなという学校の先生方の御希望の中、1クラス25人というのは現にアメリカの公立小学校の大体の規模だと思うんです。そういうことから考えて、日本の教育も進めてきて、従来から大いに変換する時期に入っていくと私は思っています。

ほかにいかがでしょうか。

事務局のほうからお話を、よろしゅうございますか。

○渡邊教育推進課長 申しわけありません。ちょっと時間の、大分押しておりますので、次の意識調査のほうにお願いできればと思います。

○井上室長 では、会長、よろしいですか。

○船橋会長 どうぞ。

○井上室長 先ほどご議論を少しいただいたところですが、意識調査です。あくまで事務局としてのたたき台がないと議論も深まらないかと思ひまして、ご用意をしてありました。今回の意識調査の狙いというのは、この審議会を考えていく上で実際保護者、学校関係者がどんな感覚、感触を持っているのかという点を知る必要があるだろうという点、それから、今の小規模化に対する課題の確認、それといろいろなデータを収集するという、こういった目的から行う必要があるというふうにして提案をさせていただきます。

配布回収は、先ほどお話があったように、学校を対象に考えていましたので、学校現場での配布と回収という段取りで約1カ月というのを考えていました。現在の保護者の数、兄弟もいらっしゃるのですので、約2,000というふうに考えています。約2,000のサンプルを抽出をして分析をしたいというのが大きな骨格です。

具体的にどういうことを聞きますかという、まずはクロス集計をする都合上、性別、年代、子供の学年については必須事項として伺います。

その次が通学距離に対するお考え、それと当然通学路を考えると、今もそうですが、どういった点、さらに配慮すべきかという点ですね。これをお聞きしたいと思っております。

3番目がポイントになりますが、現在子供の数が減っているという点はきちんと丁寧に説明した上

で、昔と比べて、それから過去と比べてどういった点で課題が感じられるかという点を項目立てをしてお聞きしたいと思っております。いま1つが、先ほど校長先生にお聞きしたのと同じような理由ですが、大体どれぐらいの子供の数がいたらいい環境と言えるでしょうか、理由とあわせてお聞きしたいと思っております。

次が子供たちにどんな設備、環境を整えてあげたいか、今学校にないもので、今後設備を充実したものがいいのはどんなものか。こういった点です。最後が地域との共存ということで、多機能化についての意向調査でまとめています。

さきほど平井委員のほうからお話がありましたように、保護者の方それぞれに現在の学校現場で抱えていらっしゃる課題というのがあるんだと思うんです。あるいはないのかもしれませんが。それを今回正面からお聞きしたいというのがこのアンケートの趣旨でございます。

今回は、この学校現場で肌で感じているところをまずはお聞きして、検討材料として、今後全体的な枠組みについては、その段階、その段階で説明会なり意向調査はやるべきかと思っています。

まずきょうの提案は、保護者向けのアンケートということでご提案を申し上げます。

以上です。

○渡邊教育推進課長 ちょっと補足させていただきます。

今、井上のほうから具体的な説明をさせていただいたんですけども、やはり先ほど来、皆様のお話の中で出ていたこともありますけれども、やはり現にかかわって当事者意識をお持ちの方々の意見というのが一番いただいて参考になるのかなということがありまして、また、お子様を現にお持ちでない、あるいは卒業して大分たれた方についてはどうしても意識が遠ざかってしまっている点がありかなということがありますので、そういった方々を無作為抽出という形よりは、保護者の方々にじかにお願いしたほうがより効果的なデータをいただけるのではないかというような事務局の考え方でこういう設定をさせていただいております。

皆様からご心配をいろいろいただいております、どの学校を残してどの学校をなくすというような意識は持っていただきたくない。そういうことをですね、この実際の設問以外に導入の説明として、将来に向けてどんな環境、子供たちの教育をどうしていきたい。宮代の今のよさをどう残していきたい。そのためにどういう教育環境、設備、規模が必要なのかと。そういうことを検討するための材料とさせていただきたいということ、ちゃんと前もって説明した上でアンケートに答えていただくようなスタイルにしたいというふうに考えます。よろしく願いいたします。

○船橋会長 ありがとうございます。

ただいまお昼前、7分前に、予定は一応12時半ということですが、ちょっと私のほうで進行のほうでご相談をしますが、休憩前に和井田委員さんのほうからワーキンググループをつくろうよというご提案がありましたので、ワーキンググループの構成についてお諮りすることが、3つワーキンググループを考えています。そのご相談をどうでしょうね、この後、可能な限り、10分ほど時間をとって、ワーキンググループの名称と、それからそれぞれのワーキンググループのメンバー構成をどうするかということをご相談したい、このように思います。

それは、先ほど来のお話で、市民の皆さんによる広報の、保護者の皆さんへのお話のキーワードにも伝える方法もあります。ですから、私もワーキンググループをぜひつくってみたい、そのように思います。

さて、今の意識調査の内容、事務局のほうは一応各学校、7校ですね、7校の保護者の皆さんにと
いうことで下準備しています。これまでのきょうの話題の中で出てまいりましたのは、現に就学前の
お子さんをお持ちの親御さん、いわば保育園、幼稚園のお父さん、お母さんに聞こうやと、そういう
お考えも示されていますし、それから鈴木委員さんのほうからお話ありましたように、一般の市民の
方にもできたら聞こうよというご議論も出ています。そうなりますと、ちょっと修正が必要かと思
います。

まず、お諮りしたいのは、時期についてはもうこれは余り動かしようがないと思います。ですから、
調査の対象、それから内容の盛り込み方と何う前の大事な、この調査は何のために行うものすとい
う大事なところのキーワードぐらいはきょうお話を伺えたらと考えますので、お願いしましょうか。

○鈴木委員 ちょっとだけいいですか。

○船橋会長 どうぞ。

○鈴木委員 最初の第1回目に出たときの印象だったんですけども、もう委員の立場として考えると、
ようやくきょうで理解がちゃんとできて、するべきだなと、こう前向きにやっていかななくてはいけな
いんだという意識にはなっているんです。ただ、委員の意識からちょっと離れて、第1回目のイメ
ージでやると、ちょっと言い方は悪いですよ、言い方は悪いですけども、もう役所のほうで何かもう
つくってあって、その出来レースの中に一応PTAさんも入っているからご賛同いただいて進めたん
ですという理由づけに僕らだけ何かぽんとおられて、何かそういうイメージが最初強かったんです。
もう最初の資料があれだったんで。

だから、政（まつりごと）とかというのは非常に難しいですし、組織だとか人全体を動かすとい
うのは物すごくイメージとかというのが大事なんですね。でっかい商社とかで組織の中核にいて、幹部
とかにいたときとかも、非常にそういうふうな人を動かすって、悩んだりしたことがあったんですけ
れども。

最初に、どうしてもさっきの人数統計が出てこのまま減っていきます。宮代町がどんどん貧相です、
税金もないんです。だから、縮小しなければいけないのでという1回目に出た資料をばばっと見ると、
もうやらなければいけないんですよというのが前提になっていて、イメージがもう後ろ向きの傾向か
ら発して、じゃ、ついでに縮小したときに、何かこう後づけで機能的にするにはどうするみたいなイ
メージのとり方をしてしまったんですね、僕個人的には。少なからず普通にこのままの資料を何も説
明しないで出すと、そういうふうを考える人も少なからずいるんじゃないかなと思ったんです。

いろんな資料を見ると、最後に、学校の老朽化とか何かがこう書いてあったりするんですけども、
さっきちょこっと休憩時間にほかの人と話をしたんですけども、1回目の委員会のときに、1つご
意見でいただいたのが自分の母校がなくなると非常に寂しいんだよという話とかもあったんですね。
それは、確かに近所の人たちなんかで、母校がないという切ないという人もいたりしましたね、確
かに。それもそれで1つなんですけども、痛み分けというのも絶対必要で、財政が苦しくなれば。
ただ、イメージとしては前向きじゃなければいけないんで、子供たちを本当に安全にすくすく育つた
めには、今の学校がだんだん老朽化してきて、書いてありますよね、老朽化してきてもう倒れそうで
すと。

次、きのうは誤作動で終わりましたけれども、本当に震度7の強震が来たら、子供たちが危ない。
なもんで、前向きな意味で宮代町は子供たちの教育を推進します。盛り上げなければいけない。もし

くは、最後はほら、避難場所にもなったりするじゃないですか、地域の。ですから、強い学校をつくりかえますというイメージが先に来ていて、その上で順番に、一遍にがっと崩してしまえば本当は楽なんでしょうけれども、一遍に崩してしまうと野原で学校授業になりますから。順番に、前向きな意味で1回壊して行って、前向きな意味で本当に多機能化した上の立派な学校につくりかえますというイメージに何かこう持っていけるような意識調査の最初の文面になってくれるといいかなと思いましたね。

最初のデータが余りにもイメージが、もう減っている、このまま絶対減るんだという後ろ向きばかりが前面に来てしまって、何かイメージ的によくなかったんですよ。よく勉強すればよくわかるんです、こうやって。会長さんからお話聞いたり、役所の方から話を聞いて、勉強してようやく理解できるかなとか思ったんですけども、結構これ、住民説明会か何かしたりしたら、1発目がもう何かこういうマイナス傾向です、税金もこうなんです、だから削減をできるだけしたんですけど、イメージが先にそっちばかり来てしまうと、もうマイナスでとられるから、前向きにも何もなれないなという印象があったので、対策として、それは必要なんですよ、絶対、だからやらなければいけないですけども、順番的に何か老朽化が先だとか、何か大義をちょっとあれかなと思いました。

以上です。

○船橋会長 ありがとうございます。

一言で考えると、やっぱり意識調査のアンケートの冒頭に、審議会が目指す学校ですね、宮代の学校教育、それをこうしたいんです、あなたはどう考えますかというところで聞いたほうがいいんだね。だけれども、背景にはね、世の中の背景には子供たちだんだん減っていきますよということがあって、かつて私の職場でありました大学も、数年の間に18歳人口が150万減ると。全国の約600の大学があると。都市部以外の4年制の大学の4割がもう定員割れだと。そういうですね、いわば生き残りの激烈な戦いをやったんですね。そういう世の中の動きも。

だから、むしろそういうことになるんじゃないかと、宮代の町はいわば選定、選考ですね。希望の持てる意見もありましたので、私たちの町は希望を持てる学校、その案だよということで、大人も子供もそれを持ってもらいたい。そうなったらしめたものです。そういう意味でぜひ。

どうぞ。

○野口副会長 私どものほうから事務局の方にちょっと質問なんですけれども、この意識調査のところに自由意見欄、各種意見の抽出とあるんですけども、これにですね、この枠にもし「どの学校も存続を願います」というような文章なり、そういうのがあった場合は、受けとめ方はどのような受けとめ方をしていただけるんですか。

それと、もしこれでなってしまう前に、マイナスのことを考えて何なのですけども、署名等を行う場合があるかもしれないと思うんですね。そのときのこういう審議会の位置というか、そういうのをちょっと前もって教えていただけたらと思うんですけども。

○渡邊教育推進課長 ちょっと最初の説明が不十分であったかもしれませんが、町の総合計画の中で公共施設のあり方が議論、問われてですね、検討されて、前期実行計画という、前回お示ししていましたよね。具体的なプログラムの中でこの小中学校のあり方の見直しという位置づけがされております。総合計画ですから、これは議会の議決を受けた町としての基本的な方向性でございます。ですから、それに基づいてこの審議会を進めさせていただいておりますので、万が一、今、副会長さん

がおっしゃられたようなことでいっぱいそういう意見が出てくるということになると、そこからもう1回見直しということになってきてしまうんだと思うんですが。

○野口副会長 じゃ、それを引き取っていただけるとい、この関係の、というか現状という形でとっていますよね。

○渡邊教育推進課長 ただ、先ほどもお話が出たとおり、じゃ、残すとしたら、財政運営厳しい中でどういうことをするのか、そこから議論しなくてはならないと思うんです。

それから、本当に厳しい言い方をして大変申しわけありませんけれども、合併せずに単独で残るとい選択をこの町はしたわけです。ですから、それには、じゃその中で、少ない税収の中でどうやりくりするのかというのは住民の皆様自身が、これは責任を持っていただかなくてはいけない部分だと思います。我々もそのためにいろんな情報を提供させていただいてご判断をいただくということが必要なんだと思います。その中で、先ほど来あるとおり、将来的な人口の動きですとか小中学生の数がどのように変わっていくか、現状でどういう問題が出ているか、それあたりを勘案したときに、どうしても再配置、見直しをしていく必要がある。ただ、それはどこを残してどこをなくす、そんなただ減らすというマイナスの議論じゃなくて、先ほど鈴木委員さんおっしゃったように、その中で、じゃ、官代らしい教育、将来の子供たちがよりよい環境を享受できるようにプラスの議論をしていこうじゃないかというのが今の流れだということをご理解いただきたいし、それを発信したいと思います。

皆様もぜひ口コミのお力で、PTAの皆様ですとかお話する機会があったら、ぜひそういう点をお伝えいただきたいというふうに考えます。

○野口副会長 その、もし署名とかが出た場合の審議会の位置というんですかね、そういうのは、その署名をここで受け取らなくていいということですよ。

○井上室長 審議会は学校の規模ですとか数的なもの、外形的なものを判断する場ですから、1つの学校をどうこうするというのに対して審議会で受けとめる必要はないと思います。

○野口副会長 そうですよ。わかりました。それでいいですね。

○渡邊教育推進課長 それは町のほうで真摯に受けとめます。

○野口副会長 わかりました。

○船橋会長 どうぞ、。

○上田委員 すみません、時間も余りないので、1つは、スケジュール的に、これを見ますと9月に事例研究ということで視察するというのにならなっているんですが、それで、月に1回だとすると9月に来ますよね、視察して。そしてこれが10月に実施されると書いてあるんですが、そうすると、この意識調査をするためのアンケートの文言を我々は検討しないと、先ほど副会長さんのお話のようなこともあるので、この文言に、これは概略ですから、文言にしたものをしっかり審議する時間が必要なんではないか、私は思うんです。そうすると、9月に視察してこれを審議する時間があるのかどうか。それが大変危惧するところです。

というのは、ここで大体わかってきた、アウトラインがある程度見えてきたんですが、この先進的にやっているところを見て、アンケートはどうしたのかとか、または統廃合に対する審議会をどうしたのかとか、私は聞きたいんですよ。それでもっと勉強してやっていかないと、何かすごく怖い部分を感じるところなんです。ですから、このアンケートというのは、私もいろいろとったことがあるんですが、違った方向に行くと大変なことになりますし。よりよいまちづくりのためのアンケートなん

です、それをどうアピールしていくかということで、スケジュール的にはどうなんだろうかなということですが。

○井上室長 そうですね。先ほど来お話をいただいたこともありまして、やはり皆さん、だんだんそれぞれの理解が近づいてきたというか、共有できるようになってくるんだと思っています。その上でつくったほうがよりよいものが出ると思いますので、スケジュールは再考させていただきます。

○上田委員 意識調査は必要なんですけど、この先進的にやっているところでいろんな勉強したいなというのが本音のところ。

○井上室長 ありがとうございます。

○渡邊教育推進課長 では、とりあえず、こちらで原案みたいなものをおつくりして、時間も改めてまた集まっていたくのも厳しいと思いますので、その視察のときにご提示して、もしかしたらバスの中になってしまうかもしれませんが、見ていただく。その上でご意見をいただいて必要なら修正をすると、そんな流れでいかがでしょうか。

○船橋会長 これから立ち上げを考えるワーキンググループの中の広報担当のワーキンググループがですね、例えばですよ、今の事例研究をね……

○和井田委員 事例研究ではなく、このアンケートの文言の原案づくりのほうに、一緒に入られたらどうかかと。

○船橋会長 そういうことですか。そういう手もあります。

そうすると、先ほどの野口副会長さんの言われたような自由意見の取り扱い、あるいはとんでもないボタンのかけ違いで署名なんていうことも起きますよね。いわばそういうことがない理解を求める文面の作成ということでは、広報にもし下相談をお願いできるとすれば、この会全体の中の共通理解は早いほうがよい、そうなりますと、上田委員さんがおっしゃったように前もって、全員でもって、文言というのを見るということはどうしても不可能なんです。それをまた文面にして対象者に配るとするのは、ちょっと広報を担当のワーキンググループには少しつらいお仕事をお願いすることになります。しかし、きょうの話題の中では最も重要なんです。

○上田委員 この視察するところはもう決まっているのでしょうか。

○船橋会長 いや、まだ。お考えにはなっていたと思うんで、事務局からある程度ご提案はあろうかなと思っていますけれども。

○上田委員 もしこれから決めるということになったら、その中から事前にいろんなアンケートとかどんなのをとったんだとか、そういうのをいただいて参考にしたりするのも大きいなと。

○船橋会長 ただ、私がこれまでいろいろ、これはもうホームページのほうで探してみたんですが、今のような話題にマッチしたアンケートを実施した自治体、あるいは審議会というものはないんですよ。

○上田委員 というのは、私がさっき言ったように、ある地域では、財政もあるけれども、児童が減ったので、じゃ、やりましょうとやるところならあると思うけれども10年とか20年スパンでやっているところというのはあるのかなと考えたんで、今。

○船橋会長 いや、そんな長くはありませんね。大体これまでの拝見した内容を考えますと、福岡県の嘉麻市という町があるんです。そこも大体、私どもと同じようにほぼ1年の審議で答申を出している。それから和井田先生どうぞ、具体例がありましたので。

○和井田委員 アンケートに関して言うと、例えば西会津のほうは、教職員にアンケートをとっている

んです。だから、教職員にとつたアンケートの内容にも参考になることがいっぱいあると思うので、何ていうんですか、今ちょっと一緒にですね、船橋先生と一緒に考えさせていただいた中、3つのワーキンググループをちょっと考えていて、1つが学校教育ワーキンググループで、これは宮代の教育をどうするか。さっきお話になったような話の中で、例えば今現状がおかしいんじゃないのとか、地域の人をもっとちょっと入れればいいんじゃないのという、明日できることも含めて入れていくという教育グループと、それからもう一つは、適正配置に向けたいろんな何ていうんですか、だから事例研究、どこに行くかとか、それから、スケジュールちょっと延び延びになっているけれども、どんなふうを考え直すだとか、それから、適正配置は全国的にはどんなふうになっているかとか。そういうふうなもうちょっといろんな情報を得て、これ全体を動かすのに必要なことを調べるグループ。

そしてもう一つがさっき言った広報で、どんなふうに表示するかとか、それから今こんなうわさが出そうだから気をつけたほうがいいみたいなことに対してどんなふうに対応するかとか。あと、このアンケート経緯ですよ。どんなふう意見を求めるか。

この3つは相まっていますので、こういう会でそれぞれが今どうなっているというのを報告し合うと、またそれを受けていけると。だから、その会までの間にワーキンググループの人たちがそれぞれのグループでやれるところを少し宿題をやってきて、それでまた出して、また帰ってというふうにしていくのがいいんじゃないかなと、ちょっとさっきお話しさせていただいたんですけども。

○船橋会長 ちょっと前後してしまいますが、今、和井田委員さんのお話になったように3つのワーキンググループ、これから具体的に、もうご提案というか、説明があったとおりのものにします。そうなりますと、今お話をしておりますアンケートの内容まで踏み込んだワーキンググループというものができてきました。

それから上田委員さんのおっしゃった、先進的にもう進んでいるところ、それから今、和井田委員さんのお話になった、どこでしたか。

○和井田委員 西会津です。

○船橋会長 西会津の例。それから、もう学校の統廃合を実際にやった、経験した、そこで住民の皆さんにアンケートを配った、どんなものを示した、どういうふう分析したか、さっき申しあげました嘉麻市の具体例も私の手元にございます。

そういう意味では、実は手元にある意味のかかなりの資料があるんです。例えば嘉麻市の場合には報告書が附属の報告書を含め120ページもあるんです。それを紙版にするのは至難のわざであります。電子版で読んでもらうといっても、これもまた至難のわざなので、なかなか難しいんでね。ですから、1つやり方で、コンピュータの環境が整っていれば、教育委員会のホームページのところに、つまり委員限定のボタンを用意しておいて、そこに資料を全部置いて確認できるようにしておけばいいんですが、それがなかなか難しいようなので、どうするか今一番悩んでいるところです。

さて、ちょっと少し困りました。時間がもう絶望的な状態になりました。

前後してしまいますが、事例研究の取り扱いについては、1つのこれは私のほうからのご提案ですが、今後、これからきょう、ご相談するワーキンググループと事務局のほうで調整したものが出てくると期待するような方向、ちょっといかがですか。

○渡邊教育推進課長 申しわけございません、ちょっとよろしいでしょうか。

ワーキンググループのご提案いただきまして、本当にありがたいお話で伺っているんですが、実は、

事務局として当初の案では想定していなかったものですから、予算的な裏づけもございませんし、あと、時間的な問題にもかかわりますので、大変申しわけないんですが、会長、副会長、和井田先生と事務局で、その原案について1回もませていただくわけにはいかないでしょうか。

○船橋会長 いや、白紙の状態、ここにも素案の素案がありますので、白紙の状態で行くのか、今の事務局のご提案、それから今、差し当たっての会合費ですね、そういったこともございますが、手弁当でやるかどうかなんです。この委員の皆さん全員が手弁当ということじゃなくてですね、私どもは、いずれのワーキンググループのお手伝いもすると、実はもう覚悟しております、要は、公募の委員さん、それから区長さん方の委員さん、教育のほうの委員の皆さんのお考えを聞いて、今、事務局からの1つの心配はお金ないよ、それでもいいかということなんでしょう、あとは時間です。

○渡辺教育推進課長 無責任にどんどんお願いしますとはちょっと言いにくい状況なもんですから。

○船橋会長 それは、委員としての、僕はある意味、ロイヤリティより情熱と言っているのかもしれない、そういうことではなかろうかと思うんですね。

○渡辺教育推進課長 非常にありがたいお話なんですけど……

○船橋会長 現実にこれからもう少し、じゃ、具体的なワーキンググループのことをお話しますが、PTAの皆さんのほうには、きょう言ったように、宮代の町がこれからこういう教育しようよというようなことを考えていただく、そういうことをお願いしたいなど。実は私のほうからのご提案なんです。それから、区長さん方と公募の委員さんのほうは、ご自分がお望みになるワーキンググループ、具体的にもう広報と教育と適正配置、この分野でいいお知恵を頂戴するというにしようかと。

私ども、上田委員さんも含めまして、私どもはいずれのワーキンググループにもそれぞれ、それぞれの都合でそれぞれ、余りいいお知恵がない場合もあるんですが、行こうと、こう考えておりますが、上田委員さん、まづいかがですか。よろしゅうございますか。さっきのお話で、あちらこちらでご活躍をされているようですので、よろしゅうございますか。

○上田委員 町のために、はい。

○船橋会長 ありがとうございます。

さて、事務局のほういかがですか。さっきのご提案があった意識調査の文面の素案の作成の仕方ですが、ワーキンググループのほうでもですね……

○和井田委員 私たちプラス広報が入るだけでなるんですか。それで、どなたが広報でどなたが適正配置かというのはちょっと考えて……

○船橋会長 ご希望も頂戴してですね。ワーキンググループのほうでつくりましたものは可能な限り、審議会が開かれる前に可能な限り配信していただくということで。どうですか、少し散漫ですけども、ご提案は。

○野口副会長 行ったほうのが、次の会議にすんなり行けるんじゃないかなと思います。

○鈴木委員 やったほうがいいと思いますよね、このワーキングは。絶対やったほうがいいと思うんですよ。

○船橋会長 そうですか。総括的に、じゃ、ワーキンググループの活動を下地にするということでもよろしゅうございますか。

○船橋会長 そうしますと、ワーキンググループの内容をもう一度申し上げますが、言葉は、広報と適正配置と教育の3つのワーキング、もう一度繰り返します。広報と適正配置と教育の3つのワーキン

グループ。提案します私の希望は、教育関係のワーキンググループにはぜひPTAのほうからお入りいただきたい、全員でなくてもよろしい。可能な限りということで。

○和井田委員 できれば全員がいいですね。

○船橋会長 できたら全員……

○和井田委員 校長先生もそちらにお入りになって……

○船橋会長 そうですね、校長先生方もそこへ入っていただいて。

そのワーキンググループ、もし……

○和井田委員 こちらが2つに分かれる感じに。

○船橋会長 そうですね。校長先生に入っていただければ、大塚先生、ワーキングの世話役もお願いしてよろしゅうございますか。

○大塚委員 はい。

○船橋会長 じゃ、決まりました。

そうしますと、こちらの皆さんにお伺いして、もし差し支えなければ、いずれのワーキンググループに委員のほうからご希望をお出しただければ。全員がということではない。教育のほうの主体は校長先生とPTAということになっています。そこへお入りいただいても結構です。

さっきのお話で考えますと、上田委員さんは広報の……

○和井田委員 いや、多分適正配置かなと。

○上田委員 言われたところで。

○船橋会長 適正配置のほう。

○和井田委員 ええ、何かいろいろ情報を得ていると感じましたし。

○船橋会長 そうか。はい。上田委員さん、特に。

○上田委員 どこでも、言われた……

○和井田委員 私は、じゃ教育へ行きましょうか。

○船橋会長 そうですね。じゃ、和井田委員さんは教育を主に。

○野口副会長 わかりました。広報ですね。

○船橋会長 野口さんが広報。

○野口副会長 はい。

○船橋会長 和井田委員さんが教育……

○和井田委員 「主に」ということですね、すみませんが。

○船橋会長 主に。上田委員さんが適正配置。教育のお世話をいただくのは大塚先生にお願いします。事務局、今の進みはいかがですか。

○井上室長 目的として、教育の分野が皆さんが共通認識されていればいいと感じは受けていますけれども。ほかはテーマが見えているんですけども、教育の分野のテーマとどのようになりますか。

○船橋会長 教育のほうは、ワーキンググループで考えたものをたたき台にして、多分、ここでもって大めにもむんだらうと思うんですがね。

○井上室長 具体的には、例えば町は町なりに教育の方針、重点施策を持っているんですけども、それと同じことでしょうか。それともあるいはこういう環境にすべきだというような提案をいただくのでしょうか。

○船橋会長 そこまではまだ見えていませんね。

○大塚委員 あれじゃないですか、今の教育現場、町から提案していただいたんですけども、老朽化だとか施設だとか、あとは教育の面とか、実際に生徒さんとか児童さんいらっしゃるの、その辺はもう少し、何ですかね、そういった状況の中からはいろいろと話をしながら、やっぱり適正配置じゃないですけども、そういった、どんな学校が、学校として、校長としてみれば、学校現場の……

〔「そのほうがいいですよ」と言う人あり〕

○大塚委員 いいですか、まだ時間大丈夫ですか。

○船橋会長 いや、もう、どうぞ。続けてください。一番大事な場面になってきましたので。

○野口副会長 大塚校長先生が言っていた話がどんどん集まってきてからこういうのが本当はできるべきなのかなというような……

○大塚委員 はい。だから、そういうあと、教職員もいろいろとと思っていることもあるかと、今先ほどお話があったように、やっぱり宮代町——これ長くなってしまっているんですけども。教職員は異動が少ないんですね。異動が少ないということはどういうことかということ、宮代町に入ってきて、そこで一生懸命生徒さんのために教育をしたいと。それはどういうところから来ているのかということ、宮代町の教育の方針、それから今までの伝統、そして、あとは教育委員会等の行政の配慮といいますか。自分が宮代町に来たのはもう十数年前なんですけれども、庁舎はまだ建てかえをしていなくて、そして東小学校にいたんですけども、東小学校に行くとき職員の変更もままならなかったんですけども、何がすばらしかったかということ、子供に対するいろんな予算ですか。それはほかの市町に比べると莫大に多くて、あ、こういう町なのかということ、多分ほとんどの教員は感動していると思います。そういう中で、今いろんな話が出てきて、さらに教育をよくしたいというのは、教職員が一人一人が考えていることで、もうちょっとこうなるとこういうこともできるねとか、そういった考えも多分教職員は持っているかと思えます。そんなことも実際に学校に来ていらっしゃる児童生徒さんのPTAさんの方々と話をしながらいくとなると、そういった施設の面からも、児童生徒の減少の面からも、こういったものを考えた上での何か話ができるのかなというのでイメージをしているんですけども。

○和井田委員 課題の可能性がね。

○船橋会長 委員のほうから、ちょっと問いかけがありましたが、教育のワーキンググループの考え、きょうは残念ながらこういう方向でという方向性を出せませんでした。どうぞ皆さん方で事務局に問いかけながら、今、大塚先生が言われたように、学校の現場の声、それから保護者の皆さんの声、そういうものをできたら吸い上げて、ぜひ文言にさせていただきたい、こう思います。

それで、残念ながら時間がないので、最終的に取りまとめのご提案をしますが、一応野口委員さんが広報のご担当ということで、主にとこう出ましたから。区長さん方と公募の委員さんのほうは、野口委員さんのほうにご希望を出してください。それでよろしゅうございますか。野口委員さんがそれをお受けになって、一応ワーキンググループのメンバーを把握してください。同じことは、和井田委員さんも……

○和井田委員 すみませんが……

○船橋会長 事務局ですか。

○和井田委員 ちょっと申しわけないぐらい、手を挙げていただかないと1人も来ないとか、1カ所に

集中するとかがあるのです。

○船橋会長 わかりました。最後の10秒で手を挙げた、わかりました。

それじゃ、わかりました。もとへ戻します。それでは、まず教育はもういいですね。皆さんのほうはいいですね。可能な限りということで、大塚先生、よろしく申し上げます。そこに和井田委員さんが参りますので。では、教育のほうにご希望の委員さん、どうぞ。

〔希望者挙手〕

○船橋会長 お二人おいでになります。山田委員さんと、それから失礼、鶴見委員さんのお二人が教育のほうに入って。それから広報はいかがですか。広報、町の皆さんに。ちょっとご希望がないようでありますけれども。それじゃ、広報は一応……

○和井田委員 ちょっと置いておいて。

○船橋会長 それから、適正配置の、それじゃお二人。高柳さんと、それから高田さんと宮部さんとお三方が。都合上田委員さんの4人。

○和井田委員 ちょっと、広報は私たちとなります。

○船橋会長 そういうことになりますか。

〔希望者挙手〕

○船橋会長 山内委員さんも広報に入って。

大体グループ分けができました。これは円満です。

さて、これから実際に事例研究で研究に行く場所は、もうきょうご提案ありますか。あるいは、次回でこんなところへ行きませんかということになります、それはどちらでも結構です。

○井上室長 ちょっとよろしいですか。

○船橋会長 どうぞ。

○井上室長 ありがとうございます。

少し予定の組み直しが必要にはなると思いますので、この後、各リーダーといえますか、代表される方と調整をして、進め方はそれぞれの部会ごとにやりたいと思っています。先進事例も10月ごろというふうに考えているんですが、その整理も、きょうそこまで場所選定までできませんので、ワーキンググループの中でもまかせていただけるということであれば……

○船橋会長 それでいいですね。

○井上室長 はい。そこでもご提示はします。

ただ、参考にきょう資料だけは用意しているので、ごらんいただいて、もしほかに提案があればとは思いますが。

○船橋会長 それから、私のほうも手元にあります電子版の資料をワーキンググループ3つ決まりましたから、そこへ1冊とじ込んでお渡ししますので。ぜひごらんいただきたいと思います。なるべく早くつくりたい。いいですね、事務局のほうに電子データをお届けしますので。

○井上室長 意識調査と、それから視察等もワーキンググループで一度お話をさせていただいてということですので、そういう段取りで。前後はもちろんしますけれども、大きい流れとしては進めさせていただきます。

○船橋会長 今、ワーキンググループのメンバーの把握を、それぞれよろしいですね。後でもう1回メモにさせていただいて。

○委員 はい。

○船橋会長 ちょっと予定を越えてしまいました。どう取りまとめたらよろしゅうございますか。

ワーキンググループができて、きょうの目標が大体でき上がったんでしょうか。ちょっと反省をお願いします。大体できたように思いますが。

○井上室長 大きい流れは確認していただきました。町のほうから、今現状の情報提供もできました。目標も共有いただけたと思っています。あとはそれに向けて、全員で一週に話すとなかなか進みにくいところもありますので、それぞれグループの中で1つのたたき台をつくってもむということかと思っています。意識調査についても、それから視察場所についても、この後細部でご議論いただけるということでありますので、その調整役は仰せつかります。ということでよろしいでしょうか。

○船橋会長 はい。

○井上室長 今お配りしているのは、これまでいろいろ見てきた中で、私どもが目指す方向、町が目指す方向として合致するかなという1つの事例です。茨城なんですけど、1つは再編を行った事例です。もう一つは、たまたま近くにあるんですが、牛久市の学校は学校の施設が1日中地域開放されています。もちろん学校優先ですけども。きちんと管理する形で、プールも室内プールだったり、かなりの多機能で地域開放されている事例です。こういったような事例は1つ探してみたんですが、ほかにもあればということは広報の中でも話し合ってみたいと思いますし、事務局にお寄せいただければそういったところを探して広報の中でももみたいと思いますので、ぜひよろしくをお願いします。という報告資料です。

○船橋会長 ありがとうございます。

一応先進事例の視察に行く点については具体的なお話ができませんでしたが、それ以外については、今、事務局でキーワードをおっしゃったとおりということでよろしいかと思えます。

5. そ の 他 な し

6. 閉 会

○船橋会長 それでは、大変長時間ありがとうございます。

第2回目の審議会については、これにて閉会にしたいと思います。